

大阪からブロードウェイへ

第10回 21cafe

ゲスト: 出口最一氏 (ミュージカル・プロデューサー)
[平成20年4月17日 / 大阪市中央区: 芝川ビル]



この4月にアジア初のトライアウト公演*を大阪で行ったミュージカル『トリップ・オブ・ラブ』。プロデューサーの出口氏は、大学時代まで関西で過ごし、東京で俳優として活動した後、87年にニューヨークに渡り、プロデューサーとしてのキャリアを積んで

きた。エンタテインメントビジネスのノウハウを勉強して日本に伝えたい、という強い思いが今回の公演として結実した形だ。

「トライアウト公演の誘致は、観光産業の活性化や都市ブランディングにもつながる。今回の『トリップ・オブ・ラブ』でも、上演に合わせて世界中のミュージカルファンに大阪を紹介することで、大阪のブランド力の向上につなげていきたい」と出口氏は抱負を語った。

*ブロードウェイでの上演に先がけて、観客の反応を見るために行う地方公演

100種類の体験講座の見本市 インターナショナルワークショップフェスティバル2008 100DOORS

[平成20年8月1日～10日 / 大阪市中央公会堂 ほか]

昨年8月の38DOORSがさらにパワーアップして、今年は100講座で開催された。大阪市中央公会堂、大阪市立芸術創造館、芝川ビルの3か所を会場に、演劇、ダンス、古典芸能、楽器演奏、着付け、アート、英会話、メイクなど、バラエティ豊かな体験講座を開催。どれも1講座500円でプロの手ほどきを受けられるとあって、多くの受講者で賑わった。主催者のIWF準備委員会委員長・小原啓渡氏は、「100DOORSが、体験を通じて、世代・ジャンル・国境を越えた人々の未来へのアクションを起こすきっかけになれば」と、今後の継続にも意欲を示した。



100DOORSに参加した講師の皆さん (一部)

ZAKKAな大阪へようこそ!

第12回 21cafe

ゲスト: 玉井恵里子氏 (『tapie style』オーナー・インテリアデザイナー)
[平成20年7月4日 / 大阪市北区: レーベルカフェ]

インテリアデザイナーの仕事のかたわら、南船場で雑貨店『タピエ』を運営する玉井氏。3年前に『大阪ミナミ芸術祭』に参加した際、自分



たちの視点で大阪を可愛く紹介したミニブック『zakkaな大阪』を制作。西日本出版社の内山氏と出会ったことで、今年5月、書籍としての出版につながった。

「(海外の)ガイドブックでは『大阪はヤクザの街』だと紹介されているものがあるけれど、私たちがいる大阪はそんな街じゃない。大阪以外の人たちが、雑貨文化を見て、食事もできて、昔からある素晴らしい文化にも触れることができる、そんな本にしたい」。玉井氏は、楽しいこと、魅力的なことを発信することが、結果として大阪のイメージ向上につながるという視点を強調した。

※第11回は「拡大版 21cafe」として実施しました (P8に記事)。

八軒家浜港からスタート

七月大歌舞伎・船乗り込み

[平成20年7月1日 / 大川・八軒家浜港～道頓堀川・戎橋]

大阪松竹座で行われる『七月大歌舞伎(7月5日初日)』公演に先立ち、恒例の船乗り込みが行われた。船乗り込みは、昭和54年に『関西で歌舞伎を育てる会(現:関西・歌舞伎を愛する会)』が、「歌舞伎を一般市民にPRするイベントを」と、55年ぶりに復活させたもの。今年は、3月29日に開港した大川の八軒家浜港(大阪市中央区天満橋)からスタートし、阪田藤十郎、尾上菊五郎、片岡仁左衛門など東西の人気役者が、道頓堀川・戎橋までパレードした。また、船には橋下徹大阪府知事や熊谷信昭大阪21世紀協会会長も同乗。一行は大阪松竹座前に揃い、熊谷会長が「世界の文化財であり、日本の誇りである歌舞伎が、豪華絢爛な顔ぶれで繰り広げられることを嬉しく思う」と挨拶した。



八軒家浜港を出発



戎橋に到着